自己評価票

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をグループホームの援助指針に反映させ、この援助指針をもとに入所者への援助活動を行なっており、介護従事者は常時運営指針と一体となっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	援助指針をもとに日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の一員としてあり続けるために交流会などを通し理解していただける場を持つように心掛けている。状況により家族への連絡は密に行なっている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者と共に日課である散歩に出掛け、近隣の方々に声を掛けお互いに顔見知りになれるような機会を多く持てるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の行事（交流会）・また地域の行事（運動会・清掃活動）に参加し合う事で相互の活動に興味が持て、より深い交流が持てるのではないかと考えている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流会の中で考慮させている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で頂いた指導事項を職員間で話し合い、グループホーム２Ｆの品質目標に据え現在活動している。またグループホームに関する意見の収集に努めるなど活動してきた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方の状況を説明しながら日々実践してきたケアの成果を報告し、会議で頂いた意見は次回までに回答できるよう会議録を通し全スタッフに周知し向上に努めてきた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の方々の状況に応じ連絡や相談を行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを回覧し全職員への周知をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会・勉強会の実施	○	市の介護保険課へ連絡すると職員の派遣が可能であることが分かり、今後開催できるよう検討中である。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接を含めご家族やご本人の希望や不安を聞き、十分説明の上同意書等をいただき、入所後の生活が円滑にすすむよう努めている。解約に関しても段階的に話しをすすめ情報提供などできる限り行なう。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度あんしん相談員や面会等ご家族と顔を合わせる際に話しの内容を聞き取り、入居者の状況把握に努め、思いを形に出来るよう日々業務を見直していけるよう話し合いをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の状況に応じＴＥＬや面会時に連絡や報告を行なっている。また月に1回ご本人の様子や行事やその他連絡事項をお知らせとして送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に行なわれる運営推進会議にてご家族の希望や要望を聞きその場で回答できることは行ない、検討が必要なことは職員で意見交換し、ケアに反映できるよう努めている。面会時もご家族とコミュニケーションをとり意見を聞けるよう配慮している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等より意見を聴取し業務の見直しや改善、新たな試みを通し入居者のケアやＱＯＬの向上が図れるよう話し合い実践している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表を組む段階で把握できている行事等に関しては職員を多く配置し、通常勤務での対応が困難な場合は出退社時間をずらす等し柔軟な対応が取れるよう心掛けている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の都合による補充のみであり、意図的な配置転換はしていない。認知症の研修で職員は環境の一部であるという報告により、職員の入れ替えは混乱を招く可能性があると考えている。新しい職員を迎える際は慣れるまで他の職員がフォローし円滑にすすむよう努めている。		
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ＩＳＯ上の研修が定期的にあり、また法人外の研修にも希望者を出来るだけ参加できるようにしスキルアップを目指している。(偏りが出ないよう配慮) 研修報告を全職員に行ない業務に反映できるよう心掛けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修へ参加し情報交換を行なったり意見を持ち帰り検討したりしている	○	去年は職員の退職など多く交流会が出来なかったが、今年は出来るよう検討したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	メンタル面での健康管理として衛生管理士の有資格者が在籍している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が毎年個人目標を掲げ、目標達成が出来るよう努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	心のケアに重点を置き負担を取り除くようにご本人の言葉を傾聴し丁寧に質問に答え、また必要と思われることはこちらから質問し、グループホームをより理解して頂けるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接から契約時まで希望・要望を聞き意見交換をし、グループホームの生活に慣れるよう共に考え、入所まで密に連絡を取り合うよう心掛けている。（事前の情報収集はＣＭに行ないご本人の理解に努める）		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現段階では福祉用具購入の対応が一番多い。業者の方に来て頂き相談しご本人納得の上購入している。他施設の紹介に関しても連絡先をお伝えしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接はできる限りグループホームへ足を運び、雰囲気を体感して頂き入所後のイメージに結び付けられるよう働きかけている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	援助指針にもうたわれているよう一人ひとりはその人らしくをモットーに関係作りを進めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携は不可欠であり、何でも相談しあえる関係作りを目指し入居者を支える側として立場を尊重しつつ情報を共有出来るよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	グループホームに預けっぱなしにならないようご家族との触れ合う時間が持てるよう支援し離れて生活する事での孤立感を生まないよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はないためいつでも対応出来るようにしている。ご家族以外との外出の際は必ず了解を得るようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	新しい入居者を迎える場合既存の関係を壊さないよう配慮している。新しい入居者を受け入れ認め合えるケアをし、能力を発揮出来るような働きかけをし新たな人間関係を築けるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されて以降ご家族からの連絡はないが、必要とされるのであれば相談等受けられるようにする。		
III．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族やご本人に入所までの間情報収集に努め、グループホームで生活しながらもその人らしくするには？と全職員にて考え入所前に同じようなケアの方法を考えておけるようにする。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所手続きの1つの入所までの経緯や生活歴の聞き取り重点を置き、グループホームでの生活に取り入れるにはどのようにしたらいいか？検討を重ね、必要に応じて居宅のＣＭに情報提供を願い出ることもある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人に関わる全ての記録物より生活パターンや新たなニーズの発掘、本人の抱えている問題を早期に把握する。試行期間を設け様々な方向より本人の有する能力をはかり経過を追いながら最終的なケアの決定に至る。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	事前の情報（ご家族以外からも聴取）を元にグループホームでの生活に取り入れられるものがあれば取り入れつつ、本人とご家族の意向を中心に据え、グループホームに合致するよう全職員で話し合い、個別性を重視した介護計画を立てられるよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しや変更にはカンファレンスを行ない、経過を含め全職員の意見を聞き検討している。入居者の状況の変化を見逃さず、その都度報告し施設とご家族に温度差が生まれないように配慮している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には様々な情報を記入するよう周知徹底している。（心身の状況に加えケアプラン関係・医療・ご家族や他入居者との関わり・ご家族の意見等）これらを基にカンファレンスを行なう事にしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでの生活維持が困難になった場合に応じ、併設の老人保健施設・デイケア・居宅介護支援事業所の紹介など必要に応じ行なっている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	土地柄水害が多いため、地域の方々と協力体制を取り防災訓練など行ない備えをしている。ボランティアさんは積極的に受け入れ外部の方々と交流が持てるよう努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身元保証人が遠方で家族の支援が望めない方に対して、有料のヘルパーが家族の代わりに通院介助等してもらっている。ヘルパーとの連絡調整・情報整理は職員が行なっている。		

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて意見の聴取やアドバイスを頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の記録や介護士からの情報提供により看護師がサマリー (情報提供表) 等の作成をしている。定期的な受診をしていることで主治医にも状況把握をして頂いていると思う。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状況の変化に応じて専門の医療機関への受診を依頼している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し、医療面では中心的な役割を果たしてもらい、介護士は日々の情報を提供し入居者の状態の変化に迅速に対応できていると思う。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関あり。 サマリー (情報提供表) の作成。入院後すぐに関係を断ち切るのではなく、退院後の状況の見極めをし、グループホームでの生活が継続できるのであればスムーズに受け入れる体制を整え、困難であれば他の施設を紹介する等の対応をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算による看取りの指針に沿って行う。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	見取りの指針に従い今後の状況の変化に応じ検討を重ね、ご家族と話し合っていくようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリー（情報提供表）の提供をし、ご家族には予め住み替えにより考えられる状況を説明し混乱が軽減できるよう努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	援助指針 それぞれの入居者の尊重に沿った声掛けや対応をし、安心して生活して頂けるようにしている。記録物に関しては個人情報保護法に則り、使用目的を明言した同意書を頂いている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	グループホームの日課を強制はせず、入居者中心のペースにて各々の日課を尊重出来るよう配慮している。ただし孤立しないようレクリエーション等の参加は出来るだけして頂くよう声掛けしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者からの要望を全て聞き入れることは出来ないが、その中からできることを実行している（少人数での買い物外出・ご家族への連絡等）		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	外部の美容室利用の希望がある方に対しては連絡を取り、予約を取っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1日1食をグループホーム内で入居者と共に皆さんで作っている。用意から片付けまで偏りなくお手伝いして頂き入居者の能力発揮の場となっている。また季節感のある物や入居者へ事前に食べたいものを聞き取り作って食べるというお好み昼食を実施している。（月1回のペースで）		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒類は制限あり（ご家族からの希望で） 金銭管理を施設で行い希望時に自動販売機での購入の支援をしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの状況をつぶさに把握し、ご家族の了解を得ながら必要なものを使用して自立を促せるよう努めている。リハビリパンツやパットを使用しても個々の状況に合わせWC誘導を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節浴の実施 ご家族・本人の希望によりほぼ毎日入浴している方が1名、その他の方も拒否がない方であれば1日置きに入浴している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々のペースの尊重 室温や湿度などの調整、定期的な換気に努めている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や残存機能を生かしての家事分担、興味を持てるものを考慮したレクリエーションの提供。 1日1回の散歩で生活空間から離れることでの気分転換など出来るようにしている。（ご家族への外出依頼も含む）		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族の了解が必要になる。金銭管理を支援している方1名（ご家族・本人了解）その他にも行事による外出の際は買い物ができるようにご家族からお金を預かり対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課である散歩を取り入れ、気分転換・不穏状況の軽減を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族が入居者を連れ出す機会が持てるよう依頼している。グループホームの行事として年に５～６回外出を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状の投函 ＴＥＬ希望時は掛け間違いの無いよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会制限等ないため、職員の介入は極力避け自由に時間を過ごして頂くよう配慮している。（状況に応じて面会時の様子等聞き取りすることあり）		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束対象者居ない 身体拘束とは？・・・各職員が及ぼす影響や身体拘束が許される状況等の理解ができるように話をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の手薄な時間帯・入居者の状況に応じて危険回避の防止を含め行うが、基本的には寄り添うケアを実施している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ドアの開閉時のセンサー反応時・夜間の定期的な巡視時・食事時等所在確認実施離設の有無確認。また職員が1ヶ所に集まり死角を作らないよう徹底している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	目につかない、手の届かないとことへの収納をしている。（洗濯場の鍵設置）入居者が何か行動を起こしたらその都度対応する。包丁は入居者が無断で居室へ持ち込んだことがあった経緯により職員のみが管理できる体制を取っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの入居者の状況に合わせケアの仕方を工夫し事故の無いよう取り組んでいる。ＡＤＬ調査を定期的に行い、常に状況把握に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防災訓練時にＡＥＤの講習も併せて行う。救急車の要請・ご家族への連絡の仕方等緊急時に備え全職員が対応できるようマニュアルを作成し、万全な対応ができるような対制を整えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回（１回は夜間想定）防災訓練は地域の方の協力を得ながら行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒や急変の可能性が高いかたが多く、日頃よりどのようにしたらよいか？またリスクの理解を得るため日頃よりご家族と話し合い、常にその状況に備えている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日必ず1回測定し（2回の方もいる）、内服の状況または体調に異変を感じた際は測定している。異常を確認したら介護士からＮＳへ報告しご家族へ情報提供をし、ご家族の判断と合わせ受診して頂く場合もある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ＮＳに任せきりにせず、全職員が内服薬の把握が出来るよう薬の一覧表を作成し周知に努めている。誤薬がないように薬を入れる容器にも印をつけ、職員のダブルチェック体制を取っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘のメカニズムを理解し、出来るだけ自然排便に近い状況を作り出せるよう水分・運動・食事等多方面からのアプローチをしている。水分摂取量のチェックをしている方もいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回個々の状況に合わせて介助を行っている。残渣チェックも行い衛生状況の向上に努めている。義歯装着者の数名に関しては夜間預かり消毒を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立に沿い調理している。個々の状況に応じて主食・副食の提供量の調節・摂取量の把握、水分は１５００ｃｃをめどに。レベル低下時にも食事摂取がスムーズに出来るよう食事形態を変更するなどの配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染マニュアルに従って行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん・食器等に定期的な消毒 残った食材についても冷蔵庫にて管理し、早めに消費できるよう心掛けている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	点字ブロック・柵・エレベーターの設置		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃に加え、消臭スプレーやアルコール消毒がすぐにできるようにしている。また季節を感じ取ることができるような飾りつけを工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは皆さんそれぞれに座る場所を決めている。皆さんで集まって作業したり・ＴＶを観れるようなスペースの確保、その他にもソファーを置き、寛げるような環境作りをしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所に際し馴染みのものでの環境作りを勧めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行う。その日の状況に合わせ空調の調整もしている。冬季は湿度管理も行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置。WC⇒車椅子対応の広さを確保。ベット柵の調整・センサーマットの活用等ＧＨにて自立した生活を送って頂けるよう常に情報収集をし、入居者またはご家族の方々と相談しながら行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	理解力・認知力に合わせて対応。目印の活用（脱衣所やWC入口には札を下げ、使用中であることが分かるようにしている）		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダではプランターで花を育てている。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

	項　目		取り組みの成果（該当する箇所に○をつけること）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない

医療法人博人会　桜グループホーム（2階）

項目			取り組みの成果（該当する箇所に○をつけること）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

※　ご家族との情報の共有に努めている。（月1回のお知らせの活用のほか面会時も積極的にご家族と接するよう心がけている。）
※　レクリエーションの充実　日々のレクリエーションから季節の行事まで新しいアイディアを取り入れつつ、個々の希望等の対応をしている。出来る限り外出が実施できるよう年間で計画を立てて行っている。
※　個々の入居者の状況把握に努め、記録をしっかり残し、スタッフ間の情報共有とケアプラン等への反映が出来るようにしている。